

## 東広島市における地域子育て支援ネットワークの構築

七木田 敦<sup>1</sup>・水内 豊和<sup>2</sup>・赤尾 安啓<sup>3</sup>

### The Construction of The Higashi-hiroshima Child-rearing Information Network (HCIN)

Atsushi Nanakida<sup>1</sup>, Toyokazu Mizuuchi<sup>2</sup> and Yasunori Akao<sup>3</sup>

The Higashi-hiroshima Child-rearing Information Network (HCIN) was created in 2001 to collect and disseminate information about high-quality resources for parents. One of the services provided by HCIN is "Parent News," an Internet magazine that focuses on topics of interest to parents and to professionals who work with parents. Compiled in response to requests for a publication that would introduce those with Internet access to the activities and information available through HCIN, this "Best of" sourcebook provides and "on-line" collection of Child rearing, support, parenting, child development, and family life information. Following a brief description of the authors of the Parent News articles, the sourcebook concludes with full-text copies of counselling book of 2000 (The Committee Higashi-hiroshima Child rearing support).

**Key Words:** child-rearing, internet, network, Higashi-hiroshima city

#### I. はじめに

乳幼児期は、心身の発達のうえで最も重要な時期であり、どこに在住していても、必要とされる保健医療、福祉、保育、教育などのサービスを一貫して総合的に提供できるシステムが必要である。これまでも地域子育て支援システムでは、それぞれの子どものニーズに対し、児童相談所、保健所、医療機関、法内外の通園施設、養護学校の幼稚部、幼稚園や保育所などが連携をとりながら機能してきた。しかし現在では、保育施設が地域的に偏在していること、それぞれの地域によって資源間の連携や役割が異なっていること、一人あたりに支弁されている経費が自治体レベルで異なるなどの地域間格差が存在していることが指摘されている。よって限りあるリソースを有効に利用した新しい形の地域子育てシステムが一層必要となるであろう。

広島大学教育学部附属幼年教育研究施設では、平成12年より日常の行われている子育て支援や事例報告や検討ができる機会を提供し、また大学等の専門家の地域支援を目的に東広島市福祉部社会課（以下、福祉部とする）の協力を得て、東広島「子育て支援」連絡協議会（以下、協議会とする）を設立した。子育てに関わるあらゆる課題を検討するために、この協議会では、行政担当者、子育て支援を行う保育所、保健センターの協力を得て、幅広い協議を行っている。

本年度は、これまでの活動をベースに大学研究機関のコンサルテーションを基盤に、地域にもっとも一般的に存在するリソースである保育所の子育て支援センターをベースとした広域高速ネットワークによる地域療育のあり方について具体的な支援方法を構築することを目的に活動した。具体的には(1)東広島市内の子育てをする家庭のコンピュータ利用に関する実態を明らかにし、ネットワークで提供される子育て情報に対するニーズを調査する、(2)大学研究機関のサポートを受けた保育所をハブ(hub)として、子育て支援セン

1 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設助教授  
2 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期  
3 社会福祉法人愛和福祉会愛育保育園

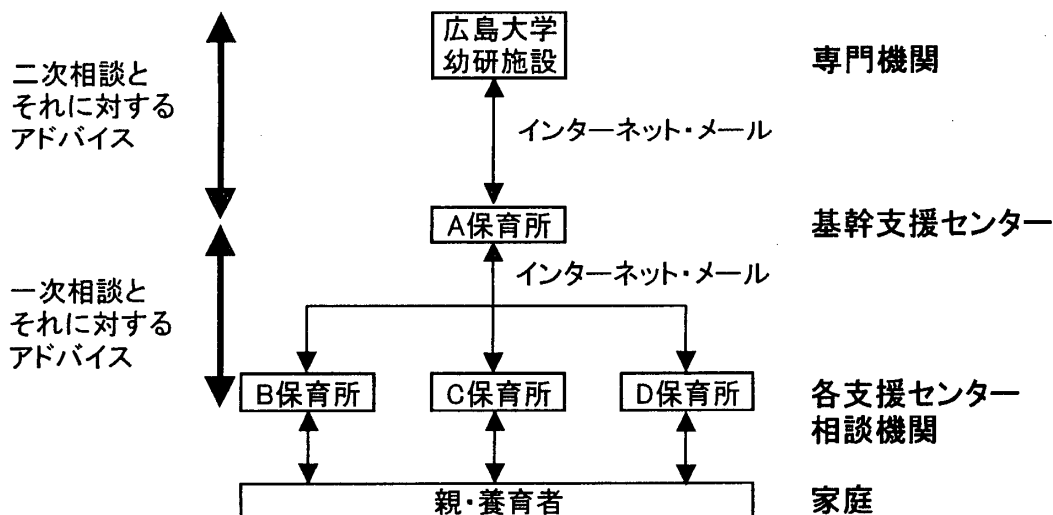


図1 子育て支援ネットワーク構想図

ターがある各保育園を広域高速ネットワークで結び、情報交換や母親の育児相談などのいわゆるバーチャル・コミュニティの場を提供する(図1)、また同時に(3)インターネットによる子どもの発達評価システムを作り、即座に客観的な発達相談を行った上で、大学研究機関の専門的な判断やコンサルテーションを行う、というものである。本活動によって、以下のような効果が期待される。

### 1. 子育て支援事業の整備と充実

これまで各保育所単独で行われてきた子育て支援事業を、ネットワーク化することにより、個々の保育所での活動状況や行事の開催などについて、利用者が家庭から(あるいは市役所等)で情報を得ることが可能になる。利用者は各園での活動内容に合わせて参加が可能となる。また各センター運営に当たって、他のセンターでの実施状況を参考にできる。子育て支援センターには子育て相談などもその業務の一つとしているが、相談内容例や回答例をハブコンピュータに構築しておけば、各保育所から常時アクセスが可能となり、担当者がより効果的に利用できる。また母親も育児の参考にできる。また各支援センターでは、アクセスを限定した上で利用者の登録や予約をコンピュータで行うことができる。子ども情報もデータベース化して管理でき、発達が「ちょっと気になる子ども」については、過去の発育状況を参考にし、適切な母親支援が可能となる。このような情報を蓄積し各センターが共有することにより、近年問題になっている幼児虐待の予防にもつながる。

### 2. 子どもの発達相談と育児不安の低減

子どもの発達相談に関しては、近年子どもを取り巻く環境が複雑になり、従来の保育者の経験などでは容易に実施できない事態になっており、専門家の知識が必要となってきた。相談ケースとしては、母親・保育者の思いこみという事例から、重篤な障害を疑わせるものまで広範囲にわたり、その数も年をおって増加している。そのため専門家が相談ケースごとに対応するにはさまざまな制約が予想される。そこで本システム上に、「インターネットによる発達相談」ソフトにより、担当者、母親が子どもの発達状況を客観的に評価できるような問診システムを可能にする。その結果を受けて、大学研究者は、助言や面接指導などのコンサルテーションを行うことができる。これは保育園在園児の発達評価のみならず子育て支援センター利用者の子どもにも利用可能できる。

### 3. 地域の子育てパワーの活性化

上記のような地域インフラ整備により、地域の子育てパワーが活性化し、全国の子育て支援、保育事業の範となると考えられる。

以上のように地域の実態をふまえ、保育所とのより綿密なシステム化を図り、家庭と専門機関との連携に基づいた新たな地域療育支援体制のあり方として、全国の範となるべき療育システムのモデルを提示することを活動の目的とした。

## II. 育児情報webに関するニーズ調査

### 1. 調査目的

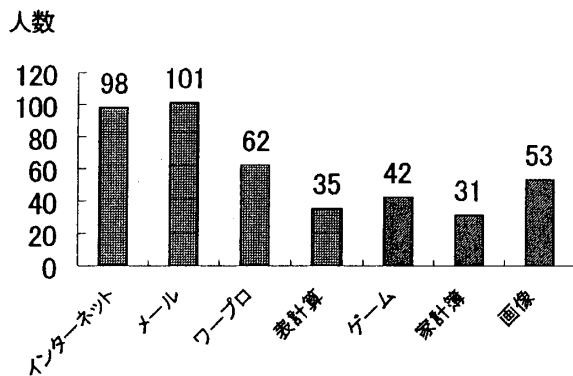


図2 よく利用するソフト

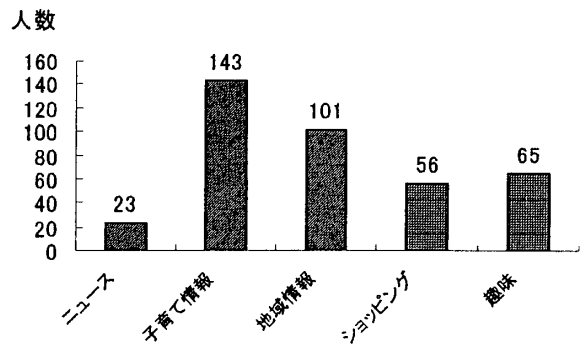


図3 望まれる情報の内容

本研究は、先述のように、大学研究機関のサポートを受けた保育所を中核として、子育て支援センターがある各保育園を広域高速ネットワークで結び、情報交換や母親の育児相談を行うことを目的としている。そのためには、コンピュータの普及に関する実態把握とwebによる育児情報ニーズ提供に関する母親の意識とニーズの把握が必要であると考え、事前にアンケート調査を実施した。

## 2. 調査方法

### (1) 調査の内容

調査に先立ち、以下のような内容から構成される調査用紙を作成した。その際、コンピュータと並んで全国的、全年齢的に普及拡大を見せている携帯電話も重要な電子情報端末ととらえ、携帯電話に関する事項も本調査の内容項目に加えた。

- ① 自宅コンピュータの有無
- ② インターネット接続の有無
- ③ コンピュータで主に利用するソフト
- ④ 子育て支援センターや市のフリースペースに自由に使えるコンピュータがあればどのようなことに利用したいか (自由記述)
- ⑤ インターネットでどのような情報を知りたいか
- ⑥ 携帯電話を持っているか
- ⑦ 携帯電話の利用形態
- ⑧ 携帯電話の情報配信サービスで望まれる情報

### (2) 調査の対象

今回調査の対象としたのは、東広島サムエル保育園、青雲保育園の各子育て支援センター利用者、愛育保育園在園児の保護者、そして子育て講演会の参加者である。アンケートの配布と回収については、講演会参加者には会場出口にて収集、それ以外は、園に依頼しておこなわれた。最終的に回収した計203名分の回答を分析の対象とした。

## 3. 結果

### (1) コンピュータの有無

自宅にコンピュータがあると回答した人は、145人で、これは全体の71%と、かなりの普及率を示していた。

### (2) インターネット接続の有無

(1)の質問でコンピュータを所有していた回答者のうち、115人(79%)はインターネットに接続しており、インターネット利用の普及もすすんでいる様子が見受けられた。

### (3) 利用しているソフト

コンピュータを所有している人が、主に利用しているソフトについて選択肢から回答してもらった。結果は図2に示すように、インターネット(コンピュータ所有者の48%)ならびにメール(同50%)の利用者が他のソフトに比べて多く、ここでもネット環境の充実がうかがえた。その他としては、年賀状、会計、デザイン、プログラム、仕事などが挙げられていた。

### (4) コンピュータの利用希望

市のフリースペースや子育て支援センターに市民が自由に使えるコンピュータがあれば、どのようなことに利用したいかを自由記述で回答してもらった。その結果、多くの回答を得たが、そのほとんどが育児に関するものであり、今後育児に関する情報提供をwebで行ううえで参考になる結果であった。以下にその代表的なものをいくつか示す。

- ・育児に関する相談
- ・母親同士のコミュニケーション
- ・各保育園、幼稚園の情報
- ・自分の子どもの通う園での日常生活の様子(行事、こんだてなど)
- ・育児に関する情報(病気、おもちゃや絵本の選択、講演会や勉強会、遊び場やイベントなどの情報)

### (5) インターネットで知りたい情報

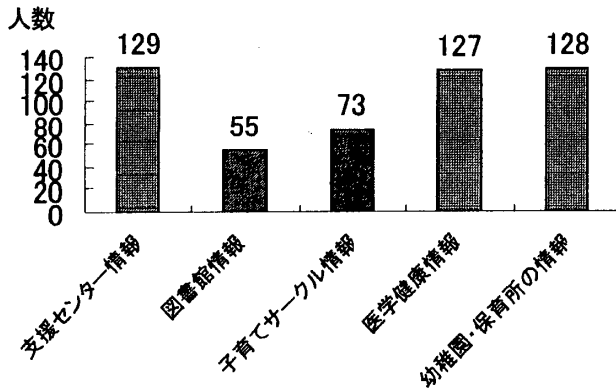


図4 携帯電話情報配信に望まれる情報

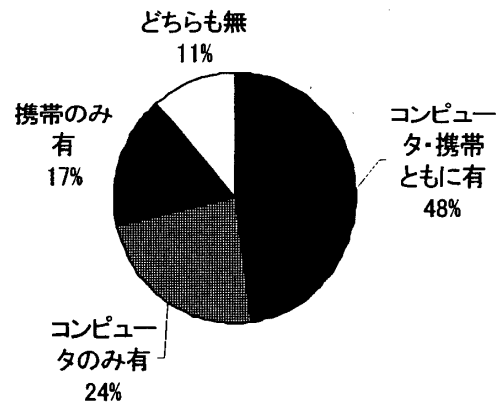


図5 携帯電話とコンピュータの普及

インターネットでどのような情報を知りたいか選択肢から回答してもらった。結果は図3に示すように、先の質問と関連して、子育て情報を希望する回答が一番多く（回答者全体の70%）、ついで地域情報となっていた（同50%）。その他の記述には、子どもと出かけられる場所やイベント、おもちゃや本、料理レシピ、旅行といったものが多く、これも先述の（4）の結果と同様の傾向を示していた。

#### (6) 携帯電話の有無

携帯電話の所有について尋ねた。その結果、携帯電話を所有している回答者は131人で、これは全体の65%であった。コンピュータと同様、携帯電話もかなりの普及率であることがうかがえた。

#### (7) 携帯電話の利用形態

携帯電話には単に通話するという機能の他に、メールを送受信したり、パソコンによるインターネットと同様webページを閲覧したり、サービス提供者の提供する各種情報の配信を受けることも可能である。そこで、携帯電話を所有している人の利用形態について尋ねた。結果は、メールのみを利用する人が最も多く（携帯電話所有者の46%）、次にメールと情報配信サービス両方を利用している人が30%であり、あわせると8割近くの親が携帯電話を利用している。

#### (8) 育児に関する情報配信サービスについて

もし東広島市の子育てに関する携帯電話の情報配信サービスが提供されるならば、それを利用したいかたずねた。その結果、利用したいとする回答者は151人で全体の74%にのぼった。

#### (9) 情報配信サービスの内容について

(8)と関連して、育児に関する情報配信サービスの

内容として望まれるものをたずねた。その結果、図4に示すように、子育て支援センター情報、幼稚園・保育所の情報、そして医学健康情報に対するニーズがあることが明らかにされた。

これまでの調査結果からは、東広島市の子育て中の家庭には、インターネットの可能なコンピュータがかなり普及しており、またあわせて、携帯電話を所持する親の多いことが示された。コンピュータと携帯電話の両方を所有する家庭は、図5に示すように全回答者の48%にものぼっている。加えて、本調査からは、育児に関する電子情報に対するニーズも多く、こうした情報を提供することで育児サービスの質的充実に寄与することが予想された。

### Ⅲ. ネットワークの構築

#### 1. ネットワークの設置状況

本研究はインターネットによる子どもの発達評価システムを作り、客観的な発達相談を行った上で、大学研究機関の専門的な判断やコンサルテーションをすることを目的としている。そのため、各子育て支援センターへのコンピュータ設置、ならびに、子育て情報サイトの基本的な部分の構築を行っており、ここに紹介する。

基幹支援センターならびに各支援センターへのコンピュータ設置は、すでに完了している。現在、各担当者が大学とのメールのやり取りなどを通じて基本的運営方針について協議中である。

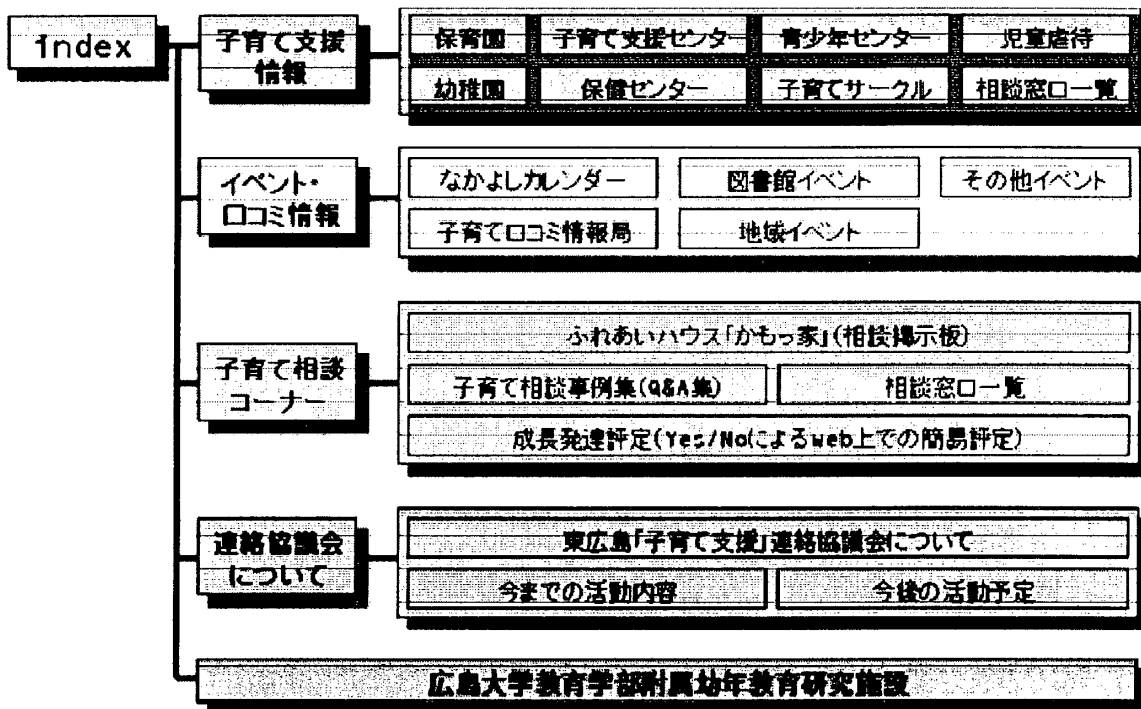


図6 「かも子育てねっと」サイトマップ

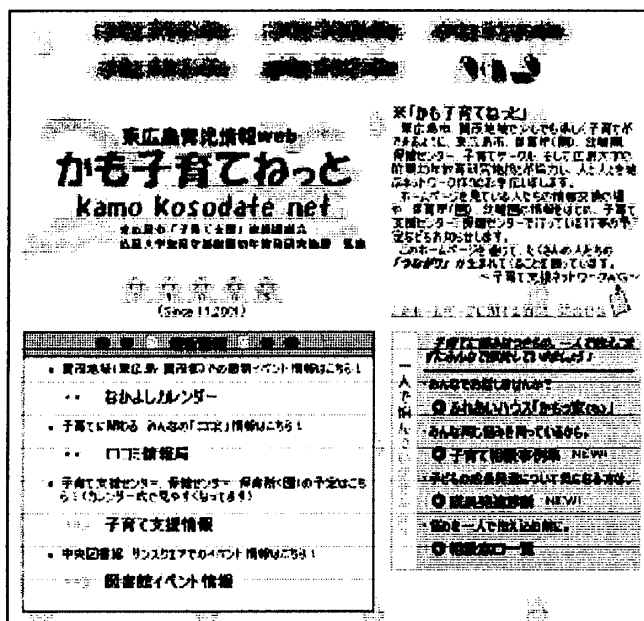


図7 「かも子育てねっと」タイトル画面

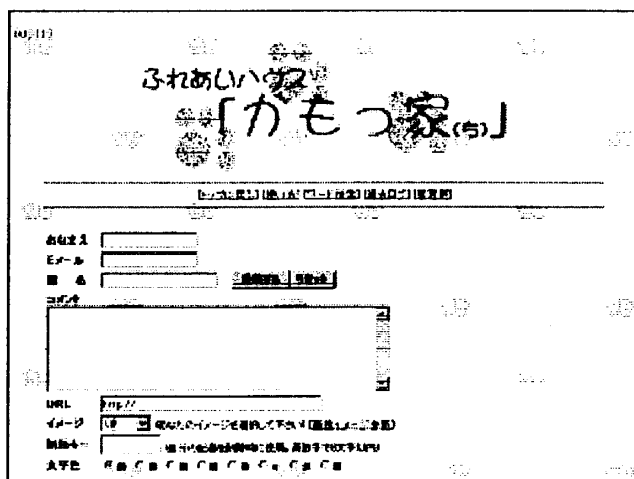


図9 子育て相談掲示板



図8 子育て支援センター予定表

## 2. 「かも子育てねっと」の全体構造

本サイトは、図6に示すようなコンテンツから構成される。主な内容は、市や保育所・幼稚園の育児に関する活動や施設の紹介から成る「子育て支援に関する情報」、毎月随時更新される東広島市の育児に関するイベントの案内や、市民からの関連情報提供ページである「イベント・子育て口コミ情報」、これまでに各種相談機関に寄せられた育児に関する相談事例ならびにweb上で子どもの発達発育を簡潔に評定できる評定表などから成る「子育て相談コーナー」、そして東広島「子育て支援」連絡協議会ならびに広島大学教育学部附属幼児教育研究施設の紹介である。これらの内容への入

口となるのが図7に示すメイン画面である。なお、本サイトに関する代表受付メールアドレスはkosodate@hirosshima-u.ac.jpであり、ここに送られるメールは、サイト運営の関係者に自動転送される。以下、各内容について概略を示す。

### 3. 各コンテンツの概要

#### (1) 子育て支援センター情報

ここでは、各支援センター担当者から各月の子育て支援センターの開催予定と内容などの情報を受け、カレンダー形式にて提供している(図8)。将来的には、ネットでの支援センター参加予約が可能になる予定である。

#### (2) 育児情報掲示板

ここでは、育児に関する相談を掲示板形式で受け付けている(図9)。回答者は、保育所の保育士、子育て支援センターの担当者、小児科医、心理・教育に関する広島大学の教官、さらには親同士である。

#### (3) 子育てQ&A

東広島「子育て支援」連絡協議会が2000年に編集した東広島「子育て支援」相談事例集をもとに、子育て支援センターや電話育児相談に寄せられた育児相談事例を編集し、Q&A形式で掲載している(図10)。ここでは、「保育所・幼稚園・サークル」「児童福祉」「生活環境」「子育て」「基本的生活習慣」「しつけ・教育」「健康・医学」「発育・発達」といったカテゴリーに分かれており、カテゴリーからまたはキーワード検索から相談事例を閲覧することが可能である。また、相談項目は随時増補している。ここにあげた回答は、保育士の

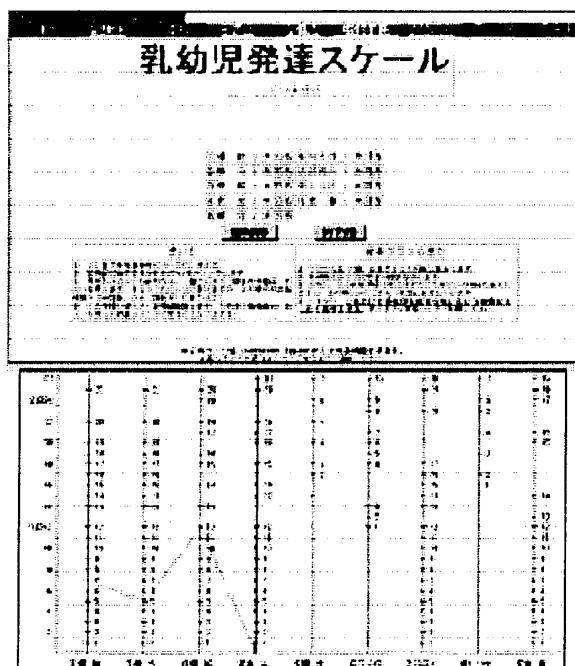


図10 簡易発達評定

語りかける口調そのもので記述されていることも特徴として挙げられる。

#### (4) 簡易発達評定

わが子が他の子どもと比べて遅れているのではないかと心配する母親も多く見受けられる。ここでは、web上で発達に関する簡単な質問に自分の子どもの状態と照らし合わせてYes/Noで答えるだけで、子どもの発達に関する全体的な発達を評定することが可能となっている。結果は、グラフ化され、視覚的に提示される。

なお、将来的には、個別登録制とし、結果をクリップボードで自動的にメールに貼り付け、専門機関に転送して、相談を受けることができるようにすることも視野に入れている。

このように、サイトの基本的構成は出来上がっているが、今後運営上の課題として、情報の定期的集約と早期更新ができるような指針を協議する必要が挙げられる。また相談に対する的確な回答ができるよう、回答者への回答依頼が適切になされるような内部体系を確立することが急務である。

## IV. まとめと今後の課題

本研究では、東広島市内の子育てをする家庭のコンピュータ利用に関する実態、並びにネットワークで提供される子育て情報に対するニーズを明らかにすることを目的にした。

対象とした東広島市内の子育て家庭では、コンピュータ保有率も高く、多くはインターネットを利用し、子育て情報に対するニーズも高いものであった。これをふまえて、大学研究機関のサポートを受けた保育所をハブ(hub)として、子育て支援センターがある各保育園を広域高速ネットワークで結び、情報交換や母親の育児相談などのいわゆるヴァーチャル・コミュニティの場を、web情報として提供する活動を行った。

大学研究機関—保育所—家庭といったネットで形成されたヴァーチャル・コミュニティでは、匿名で参加することができるためにプライバシーが保護されやすく、かつ参加の制約が低く、誰でもがいつでもどこからでも自由意思で参加・離脱が可能なコミュニケーションの場である。特に、特定のテーマの元に様々な知識を持った多様な人々が数多く参加しているため、いわゆる「弱い紐帯の強さ」を発揮でき、問題解決に有効な情報を得ることができ、ソーシャル・サポートとして機能できるとの報告もある。以下、今回の活動から課題となったことを記す。

## 1. 双方向型情報提供の充実

本活動の一環のweb情報の提供によって、東広島市内に局在するさまざまな子育て情報の集約化が可能になった。アクセス数も増え、現在で東広島市を越え、他地域からの問い合わせも少なくない。ただこのサイトが開設して時間が経過しておらず、一方的な情報提供に終始している現状がある。ヴァーチャル・コミュニティは、双方向型の情報提供、つまり発信者並びに受信者両方からのやりとりが可能になって初めて、その機能が生きてくるものと考え。この意味で、今後のアクティブな利用者数の拡大が課題となる。

## 2. 子育てサークルからの情報提供

今回作成したwebサイトが大学研究機関一保育所間の基幹を軸に、家庭からのアクセスを想定したが、1で述べたように将来的にはいわば子育て家庭からの「ミニコミ」情報なども掲載したいと考えている。東広島市内には、数十の子育てサークルがあり、これらの情報も有用で、集約化される必要がある。特に、子育て家庭の母親にとって、周囲にいる家族・友人等から得られる育児に関連したサポート(リアル・サポート)と、育児についてのヴァーチャルコミュニティから得られるサポート(ネット・サポート)の内容の相違などは、現在この分野の研究の大きな関心事であり、今度活動を進めていく上で子育てサークルとの連携は大きな課題になると考えられる。

## 3. 子育て情報提供専用サテライトタイプのコンピュータの設置

東広島市内の子育て家庭のコンピュータ普及率が高くなったとはいえ、まだまだ設置されない家庭も多くあることは事実である。コンピュータがある家庭に情報が行き届き、それ以外の家庭は情報過疎の状態になるといった情報差別化は避けなければならない。これを解決するためには、子育て家庭の親子が利用する公的機関のコンピュータや保育所の子育て支援センターのコンピュータを個人利用に解放することも考えられる。今回の活動の一環としてこのような試みを行ってきたが、公的機関のコンピュータの安全管理や保守などの問題から、通常の子育てをする親子が利用するにはハードルが高いものであることが実感された。そのための解消策として子育て情報提供専用のサテライト型のコンピュータを設置することが考えられる。

## 4. 携帯電話等への文字情報発信

加えて、情報を携帯電話等へ文字情報として提供することも、情報の差別化を解消する一助となると考えられる。アンケート調査の結果からも明らかなように、子育て家庭の母親のほぼ80%は携帯電話を保持し、

様々な情報提供を利用している事実がある。具体的には、web作成上様々な技術的な課題があり、情報にも制限的にならざるを得ないと考えられるが、今後試験的運営をしていく予定である。

## 5. 他地域との連携

このような試みが、たんに東広島市内の情報提供に終始するのは、本webの発展ということからみて望ましいことではない。この意味で、連携できる部分(発達システム、子育て相談など)は他地域との連携があれば、さらに充実したものが構築できるものと考え。

## 註

1. 本サイトは、検索総合エンジンであるYahoo! Japanに登録されている。
2. 本サイトのアクセスカウンターは、アクセス数を集計管理できるよう、改善中である。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただきました、東広島保健センター、東広島サムエル保育園、妙徳保育園、青雲保育園、西条保育所、愛育保育園の各所長、園長先生、および子育て支援担当者の先生方に感謝致します。

## 文献

- 東広島市(1997) 東広島市エンゼルプラン:すくすくタウンひがしひろしま。
- 厚生省(2000) わがまちの少子化対策。
- 水内豊和・林千津子・七木田敦(2000) 子育て支援センターを利用する母親の意識。幼年教育研究年報, 22, 61-69。
- 水内豊和・七木田敦(印刷中) 育児中の母親を対象とした東広島市の保育・子育てに関するサービス利用の実態とニーズの検討。幼年教育研究年報。
- 七木田敦(2001) 東広島「子育て支援」連絡協議会設立と今後の展望。幼年教育研究年報, 23。
- 七木田敦・水内豊和・増田貴人(2000) 東広島「子育て支援」連絡協議会編 東広島「子育て支援」相談事例集。